
箱庭エデン～君を覆うやさしい銀河～

流音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

箱庭エデン―君を覆うやさしい銀河―

【Nコード】

N0585Z

【作者名】

流音

【あらすじ】

女主人公の近未来ファンタジー。

プレイヤー応募で、【箱庭エデン】というゲームを手に入れた主人公。

それは国を作り、交流していくシュミレーションゲーム。

まだ、まっさらな大地しかありません。主人公はどんな国を作っていくのか。

神様のおつかい 1

そこにはまっさらな大地が広がっていた。何にも毒されていない、真新しい世界が。

一からすべてが生み出される。

これから生み出されるのは新しい歴史であり、私の世界だ。

【プロローグ：神様のおつかい】

ノストラダムスやマヤの予言というものは、全て外れた。

それから、数十年。もしくは数百年が経ち、人類は科学技術を展開させ続けていた。

二十世紀末より未来に私は生きていた。街並みは資料を見ている限り、さほど昔と変わっていないらしい。

一時はバブルと同じように、金の代わりに科学が日本を囲んでいた。

しかし、「このままいけば日本の文化がなくなってしまうのでは」という年寄りの意見や、若者の平成ブームがあつたことにより二千年代の街並みが再現されたのだ。

進化し続けた科学は、人の生活に活かされている。見えないところで。

今まで生きていて運が悪いと思ったことはなかった。かといって、運が良いとも言い難い。

そんな私がこれに当選するなんて、夢じゃないかと友達と小一時間確認し合ったほどだ。

私の目の前には、小さな箱があった。それを開けるのに少し緊張している。

三ヶ月前、インターネットを介して大々的な宣伝が行われた。『箱庭エデン』というゲームのプレイヤーを募集する広告で、その魅力的な内容に私も応募してみたのだ。

抽選百名様まで。少ない枠に頭から当たるはずがない、と決めつけていた。

ところが一ヶ月後、私のパソコンに当選通知のメールが送られてきたのだ。もう一生分の運を使い果たしたような気がした。

当選から二ヶ月。とうとう『箱庭エデン』がこの手に届いた。

「ダメだ。開けるのが勿体ない……」

かといって、明日までは待てない。もう夜の十時だ。寝ないわけにもいかないのです、私は丁寧に包装を解いていく。

箱を開けると、黒いスタンドと透明な丸いケース、説明書、その他に細々とした部品が入っていた。

とりあえず説明書を読み、スタンドの上にサッカーボール大のケースを設置する。置く場所は安定していないといけなから、机の上にしておく。

他の部品の説明を見る前に、全体的に目を通すことにする。

『箱庭エデンとは』

あなたには無限の可能性がある土地を与えます。

そこに栄養を与えてください。栄養とは何を与えても構いません。

水・洗剤・お菓子・読み聞かせ…… e t c ……。

あなたの思うままに与えてください。

現在エデンには生物が存在しません。

あなたの行動次第で様々な種族・文化・思考を持った国が出来ます。

あなたはその神となり、思うままに発展させてください。

出来ることはポイントが貯まると増えていきます。

まずは行動してください。ポイントがどうすれば貯まるのか、何がポイントなのか。

まずは行動してください。

尚、当ゲームに関しての情報は漏らさないでください。

誓約を破る方には相応の対価を支払っていただきます。

ルールを守った上、当ゲームをお楽しみください。

説明書にはこれだけしか書かれていなかった。

栄養を与えろ、行動しろ。すごく抽象的だと思うけれど、仕方ない。

「ルールを破った対価って何それ……。こわっ！」

誓約書にはゲーム内以外でのプレイヤー同士の接触禁止、他人への情報公開の禁止等の注意事項が書かれていた。元々ルールを破るつもりはないので、心配するつもりはないのだろうが——対価という言葉が少し気にかかった。

情報公開を禁止する、という項にはこうとも書かれていた。
国が出来るまでの日記のようなものは付けても良いらしい。ただ、国が出来てからのことは一切口外禁止とのことだ。

ふと、先ほど設置したエデンを見る。そこにはいつのまにか何もない大地が存在していた。

大きさが大きなので、箱庭のようだった……だから箱庭エデンなのか？

ケースの蓋を開き、小さなジョウロで水を与えてみる。何も起きない。

「いや、ちょっとしたら何か変わるかも」

期待を膨らませて観察する。しかし、何も起きなかった。

不安に駆られ友達に電話しそうになったが、時間も時間なので自重する。それにそれこそ情報公開になってしまう。

今日のところはこれまでにして、続きは明日にしよう。
オーディオの電源を押し、ボリュームを下げて音楽を流す。タイ

マ―もセット済みだ。

静かにゆったりとしたピアノのメロディが、私の意識を夢へと導いていった。

翌日。

私は会社帰りに肥料を買いに行った。種類が多く何が良いのか分からないので、そこそこの値段で目に付いた物を購入した。

自宅に着き、さっそくエデンに水と肥料を与えた。

すると、キラキラと大地が輝き、水と肥料が染み込んでいった。

昨日は何も起こらなかったのだが、これは一体そういう仕掛けなのか。

そういえば、事務仕事の傍ら考えたのだが、これは花を育てるのと同じだと思う。いずれ国が出来るのだとしても、まずは豊かな大地が必要だろう。

そこで、毎日朝晩と水と肥料を与え続けることにしたのだ。

他にも色々試したいのだが、この二つを優先させる。変化が起これば他の方法も試せばいい。

チューハイを片手にエデンを観察する。

これがしばらくの日課になりそうだ。

いつものようにクラシックを流し、寝る準備をする。

今日のお供はドビュッシーの月の光。

ピアノの水が流れ、波紋が広がっていくような旋律に耳を傾ける。

月の光が音に合わせて私に降り注ぐ、そんな錯覚に陥った。

神様のおつかい 1（後書き）

突発的に思いついた、国作りゲームのお話。

プロローグでは国が出来るまでのお話。

第一部では、国との交流。二部では他の国との戦いみたいなものを、書いていきたいと思っています。

気を長くしてお待ちください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0585z/>

箱庭エデン～君を覆うやさしい銀河～

2011年12月2日18時55分発行